

セゾン・アーティスト・イン・レジデンス オンライン・リサーチ・レジデンシー オープングループセッション

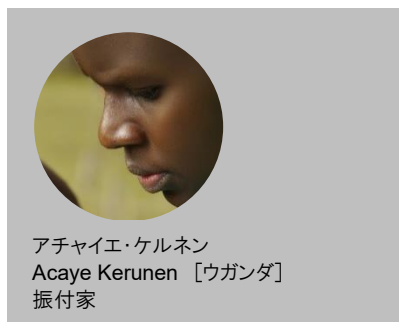
セゾン文化財団では、セゾン・アーティスト・イン・レジデンスとして、ダンスやパフォーマンス分野で活動する国内外のアーティストを対象に、オンライン・リサーチ・レジデンシーを実施しております。オンライン・リサーチ・レジデンシーは創作を見据えたリサーチを支援するプログラムで、アーティストとしての創作活動の領域を広げ、国内外で活動するアーティストとのつながりを深める機会です。

オープングループセッションでは、参加アーティストがこれまでのリサーチのプロセスやアイデアから生まれた成果をプレゼンテーションします。アーティストが自由なリサーチからいかに新しいダンスを生み出していくのか、どうぞご期待ください。

ロプレゼンテーション①:2021年3月24日(水) 午後5時～午後8時 [日本時間]



ロプレゼンテーション②:2021年3月25日(木) 午後5時～午後8時 [日本時間]



ーオンライン・リサーチ・レジデンシー オープングループセッションー

■ 配信方法: Zoom meeting / YouTube Live

※当日のプレゼンテーションの言語は英語です。

※当日、日本語への逐次通訳や同時通訳はございませんが、後日、配信時に日本語の抄訳を掲載予定。

■ 申込方法: 次の Google Form に必要事項をご記入の上、お申込みください。

<https://forms.gle/pWw8NCNBPXhHhM2J9> ※後日、視聴のための URL をご案内いたします。

■ 問い合わせ先: セゾン文化財団京橋事務所 03-3535-5566 residency@saison.or.jp

クリスティン・ブリニーニャ Kristīne Brīniņa [ラトビア]



タイトル／概要

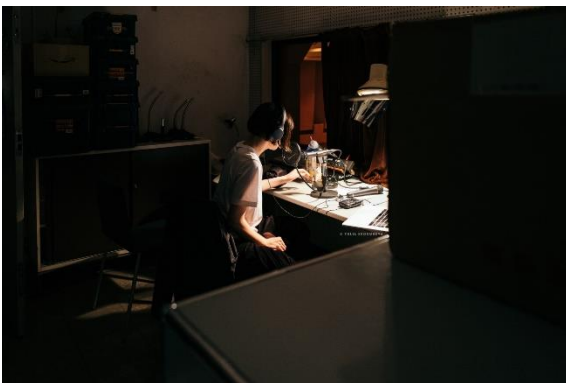
地球のモードで／In the Mode of Earth

ボディ・プラクティス「地球のモードで」の映像をシェアし、自然への共感を生み出す身体経験探求の成果を示す。合わせて、リサーチプロセスにおける発見と思考、将来の作品に関するビジョンを発表する。

プロフィール

ダンサー、振付家。ラトビアを拠点に活動。ラトビア文化アカデミー・ダンス科卒業後、2019年、リエパーヤ大学でメディアアートを学ぶ。日常生活での状況や動きの繊細な流用・再現を試みる独自の「ドキュメンタリー・ダンス・メソッド」に基づき創作する。2020年、最も普遍的かつもろい人間の状態を示す「睡眠」をテーマとした映像作品『a quiet place』を発表。

ハラサオリ Saori HALA [日本／ドイツ]



タイトル／概要

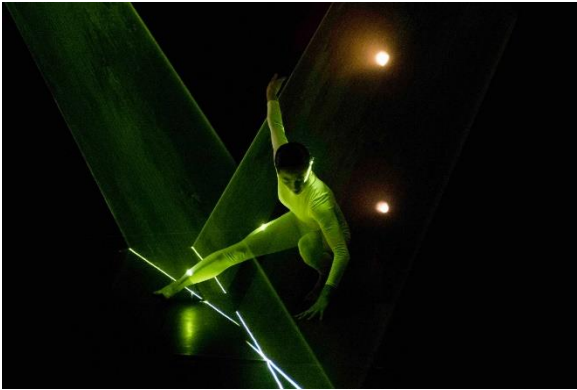
遠い実存のための振付／The Choreography for Tele-beings

振付の指示を音声のみで行う「遠い実存のための振付」を映像により実施。このパンデミック下でアクチュアルな問題である権力の問題について、ダンスにおける振付家・ダンサー、ダンサー・観客間の関係を通じて考察する。

プロフィール

パフォーマンス・アーティスト。デザイン理論に基づいたパフォーマンス作品の制作を通して、サイトスペシフィックな空間と時間における即物的身体の在り方を探究している。2019年、Dance New Air 2020 プレ公演では、慶応義塾大学の旧ノグチ・ルームを舞台に『no room』を発表。2020年、ゲーテ・インスティテュート東京では、本リサーチの出発点となる『遠い実存のための振付』のワークインプログレスを発表。

エイドリアン・ハート Adrienne Hart [英国]



タイトル／概要

花開く捕捉／Prehension blooms

「花開く捕捉」では個人と社会の相互作用により生まれる孤独を探求する。ロボット研究者、ビジュアル・アーティスト、作曲家と協働し、インスタレーションとライブパフォーマンスで作品を立ち上げるための洞察とアイデアをシェアする。

Neon Dance production Empathy.
Photo: Camilla Greenwell

プロフィール

ネオン・ダンス芸術監督、振付家。ネオン・ダンスではテクノロジー、デザイン、身体に関わるアーティスト及び技術者と積極的にコラボレーションを行っている。人間の身体と周囲の環境の関係性を攪乱する荒川修作＋マドリン・ギンズの世界に着想を得た近作『Puzzle Creature』は、越後妻有アートトリエンナーレ 2018 及び瀬戸内国際芸術祭 2019 に招聘された。

神村 恵 Megumi Kamimura [日本]



タイトル／概要

街に書かれた標識を踊る／Dance the instructions already written in town

リサーチでは、文字、図形、色によって公共空間で様々なメッセージを発する標識を、自らの感情や感覚に基づいて振付として読み替え、ダンススコアを作成した。この過程を紹介し、スコアに基づいたパフォーマンス映像をシェアする。

プロフィール

振付家、ダンサー。物質性、言語、他者との関係性といった多様な観点から身体を観察しその動作の基盤を再構築する。2004 年より国内外の様々な場所でソロパフォーマンスを行う一方、美術家・高嶋晋一とのユニット「前後」を 2011 年に、美術家・津田道子とのユニット「乳歯」を 2016 年に結成。2020 年、国際芸術センター青森に滞在し、ソロ作品《彼女は 30 分前にはここにいた。》のワークインプログレスを公開。

アチャイエ・エリザベス・パメラ・ケルネン Acaye Elizabeth Pamela Kerunen [ウガンダ]



タイトル／概要

チーンガー！／Cinga! A dance work in progress by Acaye Kerunen

握りこぶしや挨拶等々の多様な手の所作の、普遍的な意味、ウガンダ特有の意味を考察する。また、ウガンダで 36 年間続く政権に対する抵抗のメタファーである拳を掲げる所作にインスパイアされたダンスの映像をシェアする。

プロフィール

文化教育、ヨガ、現代表現の交差点で振付家として、ウガンダを拠点に活動。フィットネスセラピスト及びヨガ講師としてダンスセラピーも実践する一方、執筆活動も行う。国境を超えた取り組みと詩を活動の特徴とする。2019 年、ウガンダの Bayimba Festival of Art にて、詩と音楽を用いた多言語パフォーマンス『Mubiri Bubiri』を発表。

デクラン・ウィテカー Declan Whitaker [アイルランド／スイス]



良いことが訪れる／Good things come

映像を用いたレクチャーパフォーマンスを行う。増加の一途をたどる危機に直面し行き詰まったこの「不能の時代」(フランコ・ベラルディ)における文化的・美的な表現と、危機の原因及び影響の類似点を、遊び心を交えつつ示す。

Photo: credit Evan Vucci / AP file

プロフィール

振付家・ダンサー。タンツハウス・チューリヒに拠点を置くコレクティブ、The Field のメンバーで、現在、スイスを拠点に活動。芸術が有する自由の政治性に関心を持ち、舞台芸術に関する慣習の転覆を試行している。ポップ・カルチャーの影響が色濃い作品を創作。The Field は 2020 年、欧州有数のフェスティバル「チューリヒ・テアター・シュペクターケル」で作品を上演している